

## 環境保全のボランティア体験講座 2026 第 1 回講座レポート

自然環境の保全をする活動のことをちょっと気になっている人が、実際に活動地で参加体験できる大人気の講座が、今年度で 6 年目を迎えました。申込数が多かったために 18 名の枠を少し拡大して 21 名でのスタートです！因みに社会人の方の申込が無く、受講生は全員学生さんです。第 1 回目の座学講座は 6 月 7 日(日)に大阪南港 ATC グリーンエコプラザのセミナールームで開催しました。

この日の参加者は 19 名で、左下の写真は受付時の様子です。その写真の右端に写っているのは昨年の受講生ですが、基調講演 I をご担当くださる先生のご講演をぜひお聞きしたいとのことでしたので、運営スタッフとして呼び出してご協力いただきました。



さて、右の写真は、冒頭の当協会松本理事長挨拶の様子です。このシリーズ講座の開講も 6 年目になるということで、講座の参加に対する受講生への労いの言葉を述べました。



そして司会による講座の趣旨や流れを説明後、基調講演 I としまして「生物多様性とは何か？—淡水魚で考える環境保全—」を、近畿大学名誉教授の細谷和海先生にご講演いただきました。実は開始前に細谷先生監修の図鑑「日本の淡水魚」を 2 名が持ち込み、先生にサインをいただいているシーンがありました。知る人ぞ知る、日本を代表する魚類学界の権威の先生なのです。



細谷先生のご講演では、受講生がスライドを印刷した配布資料に熱心にメモを書き込む姿が多く見られました。



また、ヒトの遺伝的多様性を、実際に指を組んだり腕を組んだり会場参加型の手法で解説されたりもしました。

そして、生物多様性にとって最大の脅威である外来種のお話を、魚類を例にお話された後、環境保全ボランティアが知っておかなければならない10か条を説明されました。



最後に細谷先生は、味盲試験というものをされました。PTC(Phenylthiocarbamide: フェニルチオカルバミド)という薬品をしみ込ませた試験紙を舌に載せます。①強い苦味を感じる人もいる②わずかに苦い程度の人もある③全く味を感じない人もいる とのことで、この「苦く感じるかどうか」の個人差が大きいため、遺伝学や生物学の授業で使われたりする実験とのことです。



少し休憩を挟んで次の講演です。

基調講演Ⅱとしまして、環境保全のボランティアとはどういったものか。どういった意義があるのか。ということ、World Seed 代表理事岡見厚志さんより「環境保全のボランティアとは」と題し、お話をいただきました。



きんたい廃校博物館という大阪府八尾市の廃校になった校舎を活用して作られた、小さな自然博物館・ミニ水族館の話ができました。この施設では、絶滅危惧種の「きんたい(ニッポンバラタナゴ)」を中心に、八尾市周辺の身近な生き物や里山環境を紹介していますが、岡見さんは立ち上げ時から施設全体の運営や地域連携を担っておられました。

「最初はニッポンバラタナゴの保護活動から始まって、様々な事業者や地域の方が参画されて地域の町おこしになった」との話に、受講生は耳を傾けていました。



また、岡見さんは、この廃校博物館の関係者であり、細谷先生の教え子でもある研究者とつながりを持っておられました。そして、この講座がきっかけとなり、岡見さんはその師である細谷先生とも交流を持つこととなったのです。

さて、後半はアイスブレイクの時間です。これから始まる現地での保全活動を前に、共に活動していく仲間と事前に交流を行うことでまずは仲良くなってもらえるよう促します。

「4つの窓」という手法を用いて自己紹介をして貰い、更にお互いの趣味嗜好を知って貰えるよう、壁投影している内容を四つ折りにしたA3用紙に記入、その後3つに分けたグループ内で共有しました。



このグループは、これから始まる講座で別れて活動する時の班でもあります。メンバー同士、様々な所属、年代の人達が、自分の所属や趣味嗜好を共有し合い、会話に花を咲かせていました。受講生の皆さんは、有意義な時間を過ごしました。

一度班のメンバーを入れ替えて再度共有、終わったところから右の写真のように壁に書いた紙を貼り出してもらいました。内容を見ると、今年は魚が好きな方が多いイメージでした。そういった方には特に細谷先生のご講演が刺激になったかと思えます。



人数が多いので壁のミヤクミヤクの横断幕が見えなくなっていますが、この日の参加者で記念撮影を行いました。様々な学校から集まった、年齢の垣根を越えた一つのクラスで、これからボランティア活動の学びが始まります。



その後休憩が終わると、会場となったおおさか ATC グリーンエコプラザの展示紹介の時間です。実は日本初の環境ビジネス・環境学習の常設展示施設で、約 4,500 m<sup>2</sup>の敷地の中に環境・エネルギー・SDGs をテーマに、約 100 もの企業や団体取り組み、環境技術、リサイクル、省エネなどを展示しています。

最初に、大阪みどりのトラスト協会の事務所前で、元職員だった現環境事業協会職員の岡本がトラスト協会の事業内容や運営方法などをご説明しました。

これから皆さんが講座内で訪れる、いくつかの活動地の支援などをされています。



続いて、グリーンエコプラザのアテンダーである下司さんに、展示ブースをご紹介いただきました。下司さんは複数の大学で非常勤講師を務められ、SDGs に関する著書も執筆されており、その豊富な知識を交えたユーモアあふれる各ブースの解説に、受講生は熱心に耳を傾けていました。因みに右下の写真は、夢洲の万博記念会場跡地を見渡すことのできる部屋で万博公式キャラクター「ミャクミャク」のクイズをされている様子です。



元の会場に戻ってきてからは「次回告知」と「受講についての注意事項」や「持ち物諸注意」、「活動中の危険生物」などについて事務局連絡をしました(写真左下)。最後は環境事業協会の吉岡課長より、「とにかくこの講座を楽しんでください」と締めの挨拶があり閉会としました(写真右下)。



回収したアンケートでは、以下のように学びに関する前向きな姿勢や、今後の参加に意欲溢れる回答が寄せられました。

- ・ 環境問題についてより一層興味が湧いた
- ・ 色々なことを体験して、めいっぱい楽しめます！！
- ・ 環境のために何かができる人になりたい。
- ・ 得れる知識をできる限り吸収していきたいです！！
- ・ 晴天時、雨天時もどちらの体験内容も楽しみです。
- ・ たくさんのことを学びたいです！
- ・ 細谷先生の講演がとても興味深かったです。
- ・ 楽しみながらボランティアに全力で取り組みます。
- ・ 講座を通して里山や森林、湿地の適切な管理手法を学んでいきたい。
- ・ 今日の講演、講座を受けて次回以降の講座が一層楽しみになりました。これからよろしくお願いします。
- ・ 自然にもっと触れて詳しくなれたらと思います。
- ・ もっといろいろな種類の生き物を知りたいです！

皆さんのこれからの活躍が期待されるはじまりとなりました。